

凡 例

- 一、本史はおおむね昭和五十四年末までの記事をおさめた。
- 一、本史は全二巻とし、十三編の部門にわけ、さらに章、節、項に区分した。なお、項については文中ゴジック体にした。
- 一、文体は「である」体の口語、平かなを用い、現代標準かなづかいに従った。
- 一、用字は当用漢字、同音訓表を用いた。ただし固有名詞、その他必要と思うものはこれによらなかった。
- 一、引用文については原文のままとし、漢詩、漢文は現代文に直して併記した。
- 一、なるべく多くの参考資料をとり入れ、また将来の増補を考慮して、統計の類などできるだけ採録した。
- 一、写真は多く取り入れることにした。
- 一、史書の例にならって人名はすべて敬称を略した。
- 一、参考文献はとりまとめて掲げたが、記述の末尾等にも資料の出典を明記した。
- 一、編さんに当たって正確を期するようつとめたが、なお今後の調査と研究を要することも少くない。

滝川市史 上巻 目次

序

凡例

引用又は参考文献

表紙題字 滝川市長 吉岡清栄
 題辞 北海道知事 堂垣内尚弘
 滝川市長 吉岡清栄

第一編 北海道抄史

第一章 蝦夷地時代

第一節 古代の北海道……………三
 第二節 和人の移住……………三
 第三節 蝦夷地の管領……………四
 第四節 松前藩の確立と蝦夷地開発の情勢……………六
 第五節 江戸幕府の直轄時代……………九
 第六節 松前氏の復領と対露問題……………一〇
 第七節 幕府の再管領……………一二

第二章 開拓使時代

第一節 箱館裁判所(府)の開設……………一四
 第二節 奥羽騒乱と五稜郭の平定……………一四
 第三節 開拓使設置と道・国・郡の命名……………一五

目次

開拓使管轄

第四節 開拓使の新政と諸藩分領……………一九
 第五節 開拓使十年計画とその成績……………二〇

第三章 三県一局時代……………二三

第四章 北海道庁時代……………二五

第一節 北海道庁の成立と新政策……………二五
 第二節 北海道十年計画とその実績……………二五
 第三節 第一期拓殖計画……………二六
 第四節 第二期拓殖計画……………二七

第五章 北海道時代……………二九

第一節 戦後緊急開拓時代……………二九
 第二節 北海道総合開発計画……………三〇

第一次五カ年計画 第二次五カ年計画

第三節 第二期道総合開発計画……………三三

第四節 第三期道総合開発計画……………三四

第五節 新北海道総合開発計画……………三五

歴代北海道首長

第六章 空知の概要

第一節 空知の沿革……………三八

第二節 空知の概況……………三九

歴代空知支庁長

第二編 自然

第一章 地誌

第一節 位置・面積……………四五

第二節 地勢……………四五

地形 地形の成因

第三節 地質……………五〇

1 白亜系 2 古第三系 石狩層群下階 石狩層群中階

石狩層群上階 石狩層群高上階 3 新第三系 鮮新世

4 滝川層 5 第四系 第四系洪積層 第四系沖積層

第四節 応用地質(地下資源)……………五八

1 鉱泉(江部乙温泉) 2 石炭 3 石油 4 天然ガス

第二章 気象……………六一

滝川の生活ごよみ

第一節 気象観測……………六二

1 気温 2 雨量 3 霜雪 4 風 5 湿度 6 天候 7 地温

第二節 岩見沢測候所滝川気象通報所……………七五

第三章 生物

第一節 昔の動植物について……………七七

第二節 滝川の動物……………八二

脊椎動物哺乳綱 爬虫綱 両棲綱 節足動物甲殻綱 鳥綱 魚類(無顎綱 硬骨魚綱) 軟体動物腹足綱 昆虫綱 蛛形綱

第三節 滝川の植物……………八五

羊歯植物 種子植物 被子植物

第三編 開拓

第一章 先住民族

第一節 日本人種……………九一

第二節 本道の先住民族……………九二

1 石器時代 2 土器の出現(尖底土器文化 筒形土器文化 多形土器文化 後北式土器文化 オホーツク土器文化)

第三節 滝川における先住民族……………九五

1 滝川から出土する石器・土器 2 石狩川沿岸穴居人種 遺跡調査報告

第四節 滝川とアイヌ……………一〇三

1 トックアイヌ 2 ウンスベツアイヌ地の存置と喪失
3 アイヌの生活 4 トックアイヌの人物実話 5 アイヌ
の伝説

第五節 アイヌ語地名とその語源……………一一四

第二章 開村以前

第一節 場所と運上金……………一一九

第二節 初期の探検時代……………一二一

第三節 松浦武四郎と滝川……………一二三

第四節 開拓使時代の行政区域……………一二六

1 北海道の名称 2 仙台藩伊達家の空知分領 3 札幌本
庁管内大小区域 4 北海道大小区画沿革

第五節 明治時代の探検調査……………一三一

1 高畑利宜の上川探検 2 榎本釜次郎の空知川沿岸調査
3 ライマンの地質調査 4 松本十郎と黒田清隆の視察
5 永山長官の視察

第六節 集治監と囚人使役……………一四六

1 樺戸集治監の設置 2 空知集治監 3 監獄制度と職
員・囚人 4 樺戸集治監空知川派出所 5 樺戸集治監新
波止場出張所

第七節 十津川移民……………一六八

移住のてん末 森秀太郎懐旧録

第四編 屯田兵制

第一章 屯田兵の起源

第一節 屯田の語句……………一八三

第二節 屯田兵制の起り……………一八三

蝦夷地時代の屯田兵 明治屯田の設置

第二章 屯田兵制度

第一節 屯田兵の諸規定……………一八七

屯田兵例則 諸給助及貸渡器械定則 屯田兵諸官職務

第二節 屯田事務局設置と屯田兵の服役・給与……………一八九

第三節 屯田予備兵の制度……………一九〇

第四節 制度の改正と第七師団への従属……………一九二

屯田兵条例 土地給与規則 移住給与規則 屯田兵員及
家族教令 第七師団への従属

第五節 屯田兵の消長沿革……………一九六

第六節 屯田兵の召募・配備……………二〇二

第三章 滝川屯田

第一節 南・北滝川屯田兵村設置の経緯……………二〇六

志願者心得

第二節 空知太屯田兵の募集……………二〇九

召募事務手続き 志願手続き

目次

第三節 十津川移民の屯田兵応募……………二二二

第四節 屯田兵の受入準備……………二二五

土地撰定と区画 兵屋の建築及官給品 馬道岩吉の談話
空知太屯田兵屋の構造

第五節 滝川屯田兵の移住……………二二七

移住者心得 誓文 屯田兵の談話

第六節 滝川屯田兵氏名及び編制……………二三二

配置図

第四章 江部乙屯田

第一節 江部乙屯田兵の募集……………二四三

応募状況

第二節 江部乙兵村の受入準備……………二四七

土地区画 兵屋

第三節 江部乙屯田兵の移住……………二五〇

出身県別屯田兵氏名 上陸兵村到着 屯田兵移住者談話

屯田兵移住者の諸調査

第四節 江部乙屯田兵氏名及び編制……………二六〇

配置図

第五章 兵村の制度と活動

第一節 屯田移住民到着後の諸給与……………二六八

1 家屋給与 2 家具器具給与 3 扶助米塩菜料などの給与
4 土地給与 5 土地区画と給与地 6 土地の権利制限
7 屯田兵談話

第二節 兵村の自営的諸制度と組織……………二七四

1 中心機関 2 地方機関 3 地方最高機関の大隊本部

4 自治機関 5 後備役中の村治者 6 地方行政との関係

公有財産取扱仮規則 憲兵屯所 屯田銀行

第三節 屯田兵の服務・練兵及び生活・日課……………二八六

1 服務年限 練兵日課 口達簿 行軍野外演習 予備役取扱

第四節 屯田兵の従軍……………二九二

1 日清戦役 2 日露戦役 戦死者合同葬儀 談話 決死の標 日露戦役戦勝記念碑

第五節 開拓営農……………二九九

農業指導 兵村の営農 農耕以外の農業指導 滝川兵村農会 本道と屯田兵開拓の関係

第六節 屯田歩兵第二大隊日誌……………三〇八

第七節 屯田兵恩給……………三一二

1 扶助料追給請願 2 屯田兵恩給支給請願
屯田兵談話及び座談会……………三一五

長井愛之助談話 屯田兵座談会 滝川屯田移住記念碑
滝川屯田兵遺徳顕彰会 江部乙屯田親交会

第五編 行政

第一章 行政

第一節 地方行政の概況……………三二七

第二節 空知郡空知太……………三二九

第三節 行政区域の変遷……………三三二

1 国郡の設置と行政 2 滝川村の誕生と関連区域の変遷
△滝川村及び新十津川村の設置 滝川村戸長役場の設置
奈江村の設置 奈江村を滝川村戸長役場が管轄 滝川
村の境界変更 奈江村戸長役場の設置 歌志内村・富良
野村の設置 音江村の分村 芦別村の設置 砂川村に改
称 江部乙村の設置 赤平村の設置 屯田兵部落の廃止
新十津川村の一部を編入 滝川町と江部乙町との境界
改正 砂川町の一部を編入 富平・空知太の分離編入問
題 滝川市と江部乙町の合併 滝川市と新十津川町の境
界変更 町の名称及び区域の変更▽

第四節 戸長役場時代……………三四一

1 戸長役場の設置 2 戸長役場で取扱った事務 3 浦役
場の設置
滝川村々則

第五節 歴代戸長……………三四六

戸長の俸給 歴代戸長と行政 初代更谷喜延 二代多田
寛 三代佐々木篤敬 四代高田直一郎 五代月居忠清
村内入植地と戸長役場 六代乾宣忍 七代高田直一郎
八代小華和貞男 九代高田直一郎 音江分村ごろの様子
開村十年記念祭典 十代石沢竜治 十一代菊地竹治
乃木將軍の来村 十二代今井勇吉 二級町村制を迎える
滝川村の概況

第六節 二級町村制時代……………三六〇

初代村長今井勇吉 二代小西恭蔵 江部乙地区の分離独
立機運

第七節 一級町村・町制時代……………三六三

初代町長大竹康造 滝川下富良野間鉄道分岐点問題 開
村二十年記念祭典 二代奥井直吉 三代川口敏澄 開
町三十年記念祝典 四代渡辺忠四郎 五代渡辺裕次 六
代津田美之助 七代小華和貞男 滝川町に区裁判所を置

第八節 市制時代……………三八三

く請願運動 八代神部為蔵 開町五十周年記念式典 九
代斉藤昂一 町長選挙の難航 昭和二十年の滝川町概況
町長職務官掌武富文義 臨時町長代理奥山与作 十代
神部俊郎 滝川町の紋章 開町六十年記念行事 地域給
移動動物園の開催 三笠宮・同妃殿下のご来町 天
皇・皇后両陛下滝川駅前奉迎 清宮貴子内親王のご来町
市制時代……………三八三

第九節 江部乙地区の分村……………三九八

1 独立自営の可能性 2 分村の実現

第十節 二級町村制江部乙村……………三九九

初代村長亀田信雄 基本財産所在地の問題 二代山本彦
太 須麻馬内地区の編入 三代三沢貫之助

第十一節 一級町村制江部乙村……………四〇三

初代村長(通算四代目)岩佐駒蔵 二代岡本岩蔵 三代
岩橋浅次 四代三沢貫之助 五代上田梅次郎 開基三十
五年記念行事 開村記念碑 六代大崎栄吉 江部乙村是
の設定 七代米野源一 八代鞍田武夫 開基五十年記念
行事 九代高桑又一 十代松儀一男

第十二節 町制施行江部乙町……………四一八

初代町長松儀一男 開基六十年記念行事 江部乙町章の
制定 二代高桑又一 江竜橋架設運動 三代伊藤等 開
基七十年記念行事 江部乙町名誉町民 過疎地域の指
定 江部乙町役場閉庁式

第十三節 滝川市・江部乙町の合併……………四三三

- 1 滝川市の動き
- 2 江部乙町の動き
- 3 滝川市江部乙町合併協議会

第十四節 新しい滝川市の誕生と市政……………四三五

- 新市建設の基本条件
- 新市初代市長吉岡清栄
- 滝川市江部乙町合併記念式典
- 市民との対話行政
- 1 地区市政懇談会
- 2 市長に手紙を出す月間
- 3 市民への相談業務
- 4 市の広報活動
- 5 公共施設見学会
- 6 行政推進員制度
- 地方自治法施行三十年記念行事
- 開基八十八周年記念行事
- 歴代首長・助役・収入役一覧表

第十五節 市役所庁舎の変遷……………四六一

- 滝川村町時代
- 江部乙町役場庁舎の変遷
- 市役所庁舎

第十六節 村・町役場・市役所機構……………四六六

第十七節 名誉市民・市政功労者……………四七三

- 名誉市民岩橋英遠
- 市政功労者及び奨励者

第十八節 戸口……………四八二

- 戸口統計
- 人口動態の推移

第二章 都市計画

第一節 北海道の殖民地撰定と開発……………四八九

第二節 地名・字名の由来……………四九四

- 空知太
- 一の坂
- 二の坂
- 熊穴坂
- 須麻馬内
- 滝の川
- 江部乙
- 幌倉
- 地番設定

第三節 滝川の市街計画……………四九七

- 市街地の通り名
- 字名
- 地番改正
- 江部乙の市街
- 住居表示制度の実施
- 都市計画委員会
- 都市計画審議会
- 住居表示審議会

第四節 都市計画区域と整備……………五〇八

- 都市計画と整備
- 用途地域
- 新都市計画地域
- 都市公園

第三章 選挙

第一節 総代人の選挙……………五一九

第二節 滝川村・町・市議会議員……………五二二

- 第一回～三回選出村会議員選挙
- 第四回～十三回選出町会議員選挙
- 第十四回～十六回選出町議会議員選挙
- 第十七回～十九回選出市議会議員選挙

第三節 江部乙村・町議会議員選挙……………五三二

- 第一回選出村会議員選挙
- 第二回～十二回選出村会議員選挙
- 第十三回～十四回選出村議会議員選挙
- 第十五回～十八回選出町議会議員選挙
- 付・江部乙村・町議会議員組織構成図

第四節 新・滝川市議会議員の選挙……………五四〇

- 第二十回選出市議会議員選挙
- 議員定数問題
- 第二十一回～二十二回選出市議会議員選挙
- 付・滝川町・市議会組織構成など
- 議員有功章

第五節 市・町長選挙……………五五一

- 1 滝川町・市長選挙
- 第一回～三回町長選挙
- 第一回～三回市長選挙
- 2 江部乙村・町長選挙
- 第一回～二回村長選挙
- 第三回～六回町長選挙
- 3 新滝川市長選挙
- 第一回～三回市長選挙

第六節 道会・道議会議員選挙……………五五三

- 第一回～二十一回総選挙

第七節 知事選挙……………五六〇

- 第一回～九回知事選挙

第八節 衆議院議員選挙……………五六一

第十五回～三十五回総選挙

第九節 参議院議員選挙……………五六八

第一回～十一回選挙

第十節 政党・政派……………五七〇

1 戦前の政党 2 戦後の政党と道内の動き 3 滝川の各
党支部の動き

第四章 各委員会委員

第一節 地方自治法以前の委員……………五八二

常設委員 学務委員

第二節 執行機関の委員会委員……………五八六

教育委員会委員（農業委員会委員） 選挙管理委員会
委員 監査委員 公平委員会委員 固定資産評価員 固
定資産評価審査委員会委員

第三節 行政各委員……………五九四

特別職報酬など審議会委員 公務災害補償など認定委員
会及び審査委員会委員 明るい選挙運動推進協議会委員
市政調査員（モニター）

第五章 広域行政

第一節 中空知市町振興協議会……………五九七

第二節 中空知広域市町村圏組合……………六〇〇

1 道路維持管理センター事業 2 交通災害共済制度 3
視聴覚ライブラリー事業

第三節 滝川市ほか二町衛生施設組合……………六〇七

目次

1 滝川市ほか三町衛生センター組合の設置 2 滝川市ほ
か二町衛生施設組合

第四節 滝川市ほか一市二町伝染病隔離病舎組合……………六一〇

第五節 空知教育研修センター組合……………六一一

第六節 北海道広域市町村圏連絡協議会……………六一五

第七節 滝川地区広域消防事務組合……………六一八

第八節 広域行政の展開……………六二一

広域生活総合センター 道立子ども国の誘致 競輪場
誘致問題

第六編 財政

第一章 一般会計の変遷

第一節 戸長役場時代……………六二九

番外地拝借者心得

第二節 町村制時代……………六三〇

歳入歳出

第三節 江部乙村・町一般会計……………六四九

歳入歳出決算

第四節 新・滝川市の一般会計……………六五六

年度別決算額 市債

第二章 税の変遷

第一節 税の変遷……………六六三

第二節 税制の推移……………六六九

第三節 市税・手数料の変遷……………六八一

市税変遷表 市民税所得割税率 国民健康保険税 たば

こ消費税 江部乙村・町税の負担状況 手数料の徴収

第四節 財政再建計画……………六九二

1 滝川町の財政再建 2 江部乙町の財政再建

第三章 特別会計

第一節 基本財産特別会計および市有財産……………六九六

基本財産特別会計 江部乙町の基本財産 市有財産

第二節 窮民救済基本金特別会計……………七〇五

第三節 市立病院特別会計……………七〇五

第四節 上水道特別会計……………七〇八

第五節 国民健康保険特別会計……………七〇九

第六節 江部乙国民健康保険病院事業会計……………七一〇

第七節 下水道事業特別会計……………七一一

第八節 公営住宅敷金特別会計……………七一二

第九節 勤労者福祉共済特別会計……………七一二

第十節 特別会計納税証券……………七一三

第十一節 公益質屋特別会計……………七一三

第十二節 屠場特別会計……………七一四

第十三節 その他の特別会計……………七一四

滝川工業高等学校移転特別会計 滝川警察署移転特別会

計 滝川市住宅 造成事業特別会計 滝川市官公庁など

整備特別会計 江部乙町奨学資金特別会計 江部乙町簡

易水道事業特別会計

第四章 納税

第一節 納税奨励と納税組合……………七一六

第二節 納税貯蓄組合名……………七一七

第三節 滝川税務署……………七二一

第七編 厚生

第一章 保健衛生

第一節 開拓期の医療……………七二七

札幌病院空知太派出所 屯田兵村の医療

第二節 伝染病と衛生組合……………七二七

衛生組合 伝染病の発生状況 終戦後の伝染病 隔離病

舎 江部乙町の隔離病舎 伝染病の予防 結核 滝川市

衛生推進協議会 滝川地方食品衛生協会

第三節 開業医……………七三九

明治年代の開業医院 大正時代の開業医院 昭和時代の

開業医院・病院 滝川三師会 滝川市医療保健対策協議

会

第四節 滝川市立病院……………七四五

病院建設問題 病院改築と経営の改革 滝川市立病院運

営審議会

第五節 滝川市立江部乙国民健康保険病院……………七五一

江部乙村立江部乙病院 江部乙町国民健康保険病院

第六節 国民健康保険……………七五三

滝川町国民健康保険組合 北滝の川診療所 東滝川診療所 江部乙町国民健康保険組合 公営移管後の国保事業 国民健康保険運営協議会

第七節 保健環境衛生……………七五八

乳幼児健康相談 歯牙検診 成人病保健指導 じん芥処理 野犬と不用犬ポスト し尿処理

第八節 北海道滝川保健所……………七六七

第二章 社会福祉

第一節 社会福祉制度……………七六九

1 滝川市民福祉条例関係の執行概要 2 身体障害者福祉関係 財団法人北海道傷痍軍人会滝川地方支部 社団法人北海道身体障害者福祉協会滝川支部 滝川市身体障害者協会 こぶしの会 あゆみの会 めばえの会 3 精神薄弱者福祉関係 4 母子福祉関係 5 児童福祉関係 6 生活保護関係 7 老人福祉関係 滝川市老人クラブ連合会 長寿者氏名 8 国民年金制度

第二節 民生委員……………七八八

方面委員 民生委員 心配ごと相談 民生委員推せん会

第三節 社会福祉活動・組織……………七九四

1 戦災者・引揚者援護 2 滝川市遺族会 3 戦没者遺族援護・恩給法請求事務 4 募金活動 日本赤十字社と募金 共同募金 5 滝川市社会福祉協議会 旧滝川市社会福祉協議会 江部乙町社会福祉協議会 社会福祉法人滝川市社会福祉協議会 6 滝川市結婚相談員

第四節 社会福祉施設……………八一〇

1 福祉会館 西地区総合福祉会館 総合福祉センター 2 老人福祉施設 滝川市老人福祉センター 緑寿園

第五節 保育園・保育所……………八二三

3 公益質屋 4 滝川市民会館 5 滝川市民会館運営審議会 6 福祉施設など審議会 1 私設保育園 へばり保育所 ひかり保育園 みずほ保育園 東栄保育園 こぼと保育園 西町保育園 2 市立保育所 滝川保育所 中央保育所 いずみ保育所 西保育所 滝の川保育所 あさひ保育所 東栄保育所 江部乙保育所 二の坂保育所

第六節 公営住宅など……………八三二

公営住宅入居者選考委員会

第七節 公 社……………八三七

株式会社滝川振興公社 滝川市土地開発公社

第三章 上水道・下水道事業

第一節 私設水道組合……………八四〇

第二節 滝川市上水道……………八四三

上水道の必要性 創設事業 第二期・第三期事業 第四期拡張事業

第三節 下水道整備……………八四九

下水道整備 都市計画下水道事業 公共下水道事業 第一期工事 第二期工事 泉町都市下水道路事業 公共下水道事業 第三期工事 石狩川流域下水道事業 下水道審議委員会

滝川市史 下巻 目次

見返しの絵は名譽市民である岩橋英遠画伯の道産子追憶之巻より一部
分を単色刷りしたものである。

第八編 産業・経済

第一章 農業

第一節 屯田兵時代の農業……………三

1 屯田兵用地の開拓 2 産業の概要

第二節 開拓……………四

1 東滝川の開拓 2 熊の沢開拓 3 江部乙地区の集団入植
4 滝川と音江 石川団体 下農場 小関農場 田中農場
石丸農場 4 戦後開拓 幌倉開拓 江部乙南及び東十五丁目開拓

第三節 稲作……………一一

1 稲作の発祥 2 水稻の作況 凶作 西裡水田組合 洪水とのたたかい 石狩川流水計画 農村の疲弊 米価大暴落 米一俵価格表 農業団体の統制 終戦後の食糧事情
水稻の状況 多喜川米の声価 稲作と機械 低温・冷害 史上第一位の作況 3 水稻栽培と農機具の変遷
4 食糧増産 5 産米改良 6 米の生産調整

第四節 畑作……………四八

1 屯田兵時代 2 大正時代 3 畑作の推移

第五節 園芸……………五一

1 果樹 沿革 りんご栽培の変遷 各種技術の進歩 江部乙りんごの特長 なし・ぶどう 江部乙りんご協会
北海道立農業試験場江部乙りんご試験圃場 2 蔬菜 玉ねぎ 蔬菜 滝川市玉葱振興協会 野菜生産近代化

事業 3 花卉

第六節 農産加工……………六九

澱粉 薬工品 漬物製造販売

第七節 農業災害……………七〇

明治時代の災害状況 大正時代の災害状況 昭和時代における災害状況 冷水害を機に有線放送の設置進む

第八節 土地改良……………七七

1 客土・心土耕及び酸土矯正 2 灌排水 土管工場の設置 3 空知土地改良区 4 旭沢土地改良区 5 江部乙土地改良区

第九節 農業構造改善……………九〇

I 農業法と構造改善事業 II 一次構の実施概要 III 二次構の実施概要 北海道における作業別労働時間 1 土地盤整備事業 圃場整備事業 土地交換整備事業 農地造成改良事業 国営音江山地区土地改良事業 国営九加地区土地改良事業 農道整備事業 2 農業近代化施設整備事業 協業施設整備事業 野菜生産出荷近代化事業 生産施設団地整備事業 地域施設整備事業 3 農業経営整備事業 農業用地取得円滑化事業

第十節 農業総合整備モデル事業……………一〇五

第十一節 新農山漁村建設総合対策事業……………一〇六

1 地域振興協議会の設置 2 事業 青年研修所設置 農業センター 3 特別助成事業

第十二節 農地制度(戦前の制度)……………一〇九

- 1 封建時代の農民
- 2 明治の農制
- 3 小作調停法の制定
- ↳自作農創設維持 農地委員会

第十三節 農地改革(戦後の制度)……………一一三

- 1 第一次農地改革(北海道農地委員会)
- 2 第二次農地改革(農地委員 農業調整委員会 食糧調整委員会 農業三委員会の解散)
- 3 農地解放の実績
- 4 農地改革後の農村(農業改良委員会 農業調整委員会 農業委員会の農業振興保証融資運営委員会 農業振興融資審議委員会 農業振興補償融資委員会)

第十四節 畜産……………一二七

- 1 馬(農作業と馬 運搬業と馬 競馬とばん馬 戦争と馬 産馬と改良 衛生検診 馬市場 獣医師空知畜産組合)
- 2 牛(乳牛飼育のはじめ 飼育奨励 衛生検診 市営牧場 滝川酪農組合集乳所 北海道製酪組合連合会 滝川集乳所 有限会社北海道興農公社滝川分工場 照井牛乳搾取販売所 滝川酪農協同組合 雪印乳業(株)滝川工場 乳牛経済検定組合 滝川市酪農振興会 江部乙畜牛組合 江部乙酪農振興会 江部乙貸付牛飼養管理組合 滝川市乳牛検定組合 滝川市肉牛肥育センター)
- 3 豚(貸付状況 衛生検査 江部乙町養豚組合)
- 4 めん羊(綿羊飼育のはじめ 道立滝川畜産試験場 農山漁家生活近代センター 綿羊飼育の衰退 綿羊・山羊組合 江部乙綿羊組合 江部乙基礎綿羊改良育成研究会 ジンギスカン)
- 5 その他の家畜(やぎ うさぎ あいがも 養鶏(養鶏組合連合会 北部養鶏組合 江部乙町養鶏組合 滝川市の養鶏団地) ミンク養蚕(滝川蚕桑信用組合 蚕種) 養蜂)
- 6 畜産関係機関(滝川市家畜衛生防疫組合 滝川家畜保健衛生所 家畜研究所 滝川屠場 畜産主要統計)

第十五節 林業……………一六二

目次

- 1 明治時代の森林行政
- 2 北海道林業の動向(植樹並びに造林林地管理 災害防除 林産物 御料林 滝川林務署 札幌管林区署滝川担当区駐在所 滝川林産物検査員駐在所 江部乙森林組合)

第十六節 内水面漁業……………一七一

- 養鯉 滝川市内水面養魚組合

第十七節 関係諸機関……………一七二

- 札幌統計情報事務所滝川出張所 農林省食糧庁北海道食糧事務所滝川支所 農会 産業組合 農業協同組合 農業共済組合 農業改良普及所 水稻試験地 道立中央農業試験場原々種農場 ホクレン江部乙種子センター 水稻採種組合 農村環境改善センター 農協ライスセンター 江部乙農協りんごセンター

第十八節 農政一般……………一八五

- 1 講習会並びに研修会
- 2 農村青少年対策(夏期技術交換大会 青年研修生の派遣 滝川市農村青少年クラブ連絡協議会 4Hクラブ 農業学園)
- 3 生活改善(講習実践 農村電化の推進)
- 4 農業振興対策(農産物品評会 家畜品評会 農業まつり 三・八運動 農業振興保証融資 農業負債整理事業 滝川市農業改良普及事業推進協議会)
- 5 事業 農事組合の統合

第十九節 農業主要統計……………一九六

- 農家戸数・人口 主要作物別作付面積・収穫高 農機具普及台数

第二章 工業

第一節 味噌・醤油醸造業……………二〇六

- 二葉醸造場 進藤醸造場 粟井醸造場 河内醸造場 虎

谷醸造場

第二節 酒造業……………二〇六

高畑酒造店 今酒造店 広部酒造店 五十嵐酒造店 金
滴酒造(株) 滝川酒造組合 滝川小売酒販組合

第三節 製糸業……………二〇八

藤川兄弟商会滝川製糸所 滝川製糸組合 帝国製麻(株)滝
川製線工場

第四節 木材業……………二〇九

小野精米木工場 ㊦滝川木挽工場 ㊦木材工業(株) 三浦
木挽工場 ㊦木工場 座主木工場 滝川木材(株) 山下木
材(株) 隣寸軸木製造場

第五節 電気業……………二一〇

旭川電気(株)滝川火力発電所 不二電気(株)滝川営業所 北
海道電燈(株)滝川営業所 北海道配電(株)滝川営業所 北海
道電力(株)滝川営業所

第六節 軍需工場……………二一一

北海道人造石油(株)滝川第一工場 滝川化学工業(株)滝川事
業所 人造石油 人造石油滝川工場 人石マン 人石工
場群像 (株)北炭機械工業(株)滝川工場

第七節 発電・ガス……………二二四

北海道電力(株)滝川発電所 滝川ガス(株)

第八節 工場誘致……………二二九

泉町工業団地 中央工業団地 中空知流通団地 日本ヒ
ューム管(株)滝川工場 小牧大丸(株)滝川工場 丸井ニッ
ト(株)滝川工場 北興化学工業(株) 江部乙町の工場誘致八北
海道スリッパ工業(株) 新生興産(株)滝川工場 滝川市工
業概況

第三章 商業

第一節 創始時代……………二三九

商業の創始 運送の困難 番外地の好況 ㊦今井滝川支
店開く 江部乙の老舗 滝川商工業の盛衰

第二節 明治末・大正時代の商況……………二四四

1 明治末期の農産物取引 2 第一次世界大戦前後

第三節 運送業……………二四六

㊦高畑運送店 滝川運輸合資会社 ㊦加賀井運送店 (株)
滝川運送社 滝川通運(株) 日本通運(株)滝川営業支店

第四節 倉庫業……………二四七

滝川倉庫(株) 山下倉庫(株) ㊦構内倉庫(株) 五十嵐倉庫(株)

第五節 魚菜市场……………二四九

三ッ輪魚菜市场合資会社 滝川海陸物産市場(株) 滝川卸
売市場(株) 滝川地方卸売市場(株)

第六節 回送業……………二五〇

精米業……………二五二

第七節 共成(株)滝川支店 その他明治時代の精米所……………二五二

第八節 戦時中の商工業……………二五二

統制経済 企業合同 主食の配給 食糧配給公団北海道
滝川支部 衣料切符制実施

第九節 商工会……………二五五

滝川青年実業団 滝川実業団 滝川商業倶楽部 滝川実
業協会 滝川商工会 滝川商工会議所 五十嵐太郎吉
江部乙商工会 江部乙商業組合 江部乙商工業の動き
(昭和三十年代) 江部乙商工会館 中空知地方中小企

業相談所 広域商業診断 商業振興協議会 共済制度
歩行者天国

第十節 協同組合……………二六九

滝川町商業組合 商業協同組合滝川信販 滝川地方たば
こ販売協同組合 中空知砂利協同組合 協同組合滝川デ
パート・プロスビル 滝川地方骨材協同組合 滝川広告
美術塗装業協同組合 商業協同組合ショップメイト 滝
川食糧小売商業協同組合 滝川工業団地協同組合 丸協
道央荷受協同組合 空知地方石油業協同組合 滝川銀座
商店街協同組合 滝川卸売市場仲買協同組合 滝川銀
座名店街協同組合 滝川鈴蘭名店街協同組合 滝川酒販
協同組合 滝川古物商組合

第十一節 商店街……………二七四

鈴蘭通り商工振興会連合会 共栄商工連合会 江部乙商
店会 西町商工振興会 泉町商店会 大通り商工連合会
滝川商店街連合会

第十二節 商業都市——大型化と企業進出——……………二七六

名店ビル(株) 高林デパート 滝川駅前の再開発事業 商
業都市化 変貌する姿 商業活動

第十三節 遊 郭……………二八二

第十四節 関係諸機関……………二八三

日本専売公社滝川営業所 札幌鉱山保安監督局滝川鉱山
保安監督署 札幌通産局石炭部滝川石炭分析室 滝川地
方高等職業訓練校 北海道立滝川専修職業訓練校

第四章 労働

第一節 滝川の労働運動の黎明……………二九一

片山潜・安部磯雄の来町 滝川鉄工組合第二十九支部結

第二節 土工部屋から監獄部屋へ……………二九一

土工夫の募集 部屋組織 土工夫の生活 土工夫の待
遇 土工夫の反抗

第三節 農民運動と小作争議……………二九五

日本農民組合 小作移動

第四節 労働争議……………二九六

戦後の労働運動 全官公労二・一ゼネスト 滝川化学の
労働争議 全日通賃上争議 地区労働組合協議会

第五節 空知労働会館(その他)……………三〇四

空知労働会館期成会結成 空知労働会館文化振興会 江
部乙労働会館 勤労青少年ホーム

第六節 メーデー……………三〇七

わが国のメーデー 滝川地区第十七回メーデー 第十八
回メーデー

第七節 関係官庁……………三〇八

滝川公共職業安定所 空知支庁滝川労政出張所 滝川労
働基準監督署

第五章 金融……………三一三

銀行のはじまり 糸屋銀行滝川支店 滝川金融無尽(株)
小樽無尽(株)滝川支店 日之出無尽(株)滝川出張所 北洋相
互銀行滝川支店 北海道拓殖銀行の設立 北海道銀行滝
川支店 北海道相互銀行滝川支店 富良野信用金庫滝川
支店 北空知信用金庫滝川支店 道央信用組合 滝川信
用組合の誕生 中空知信用金庫・北門信用金庫 北海道
信用保証協会滝川支所 滝川町御大礼記念貯金組合

第九編 教育

第一章 学校教育

第一節 学制の変遷……………三二七

1 明治時代へ学制発布 教育令の公布 小学校令の改正
 日清戦争後の小学校令改正 滝川屯田兵設置時代▽
 2 大正時代へ大正時代の教育と学校 女子職業補習学校開設
 中学校へ配属将校 青年訓練所の開設 江部乙女学校▽
 3 昭和時代の教育——昭和二〇年まで——へ青年学校令 国民学校令 学徒勤労動員 戦前教育 高等女学校の設立▽
 4 戦後の教育改革と新教育の拡充へ終戦後 江部乙の学校概況 学校の動向▽

第二節 小学校……………三四三

滝川第一小学校 滝川第二小学校 江部乙小学校へ北辰小学校 旭沢小学校 東陽小学校▽ 滝川第三小学校 へ言語治療教室▽ 東栄小学校 西小学校 東小学校
 中学校……………三六六

第三節 江陵中学校 明苑中学校 東栄中学校 開西中学校 江部乙中学校へ北辰中学校 東陽中学校▽……………三六六

第四節 高等学校……………三七六

1 滝川工業高等学校と沿革へ庁立滝川中学校 道立滝川高等学校 道立滝川高等学校 道立滝川西高等学校▽
 2 滝川高等学校と沿革へ町立滝川高等女学校 庁立滝川高等女学校 道立滝川女子高等学校 道立滝川東高等学校▽ 東栄高等学校 滝の川高等学校 3 滝川北高等学校と沿革へ村立江部乙農業高等学校 道立江部乙高等学校▽
 4 滝川西高等学校と沿革へ私立北海道滝川商業高

第五節 青年学校・その他……………三九一

等学校 市立滝川西高等学校▽
 青年訓練所 青年学校 滝川鉄道錬成所 保護者会・後援会・父母と先生の会 特学等の育成後援団体へ手をつなぐ親の会 滝川地区ことばを育てる親の会 ことも会 育成連絡会▽ 奨学資金制度 江部乙町教育推進協議会 滝川市教育振興会 空知の教育 空知教育研究所 空知教育会滝川支部 空知教育振興会 空知教育推進協議会 現代っ子 市立学校施設整備審議会委員

第六節 学校給食・学校林……………四二二

学校給食 滝川市の学校給食 学校給食連絡協議会 学校給食連合会 製パン工場 江部乙町の学校給食 学校林へ滝川第一・三小学校学校林 滝川第二小学校学校林 東栄小中学校学校林 西小学校学校林 江部乙小・中学校学校林 西高等学校学校林▽

第七節 その他の学校……………四三三

市立おおぞら幼稚園 私立滝川幼稚園 私立えべおつ幼稚園 私立滝川白樺幼稚園 空知自動車学校 滝川における洋裁学院の創始 滝川ドレスメーカー専門学校 滝川家政学院 滝川ファッション洋裁学院 空知高等技芸女学校 ドレスメーカー空知高等女学校 江部乙ドレスメーカー学院 江部乙高等技芸学校 市立高等看護学院 空知医師会立空知看護学校

第八節 大学誘致……………四三三

國學院女子短期大学誘致の経過 國學院女子短期大学の設置準備

第九節 文化・体育・教育関係表彰……………四三六

文化奨励賞 文化功労賞・文化奨励賞 スポーツ賞 文化奨励賞

第二章 社会教育

社会教育委員

第一節 社会教育の推進……………四四一

滝川市の社会教育推進(社会教育推進計画と体制の整備
青少年の健全育成 成人教育の充実振興 文化・芸術
活動の振興 社会体育の振興) 江部乙町の戦後におけ
る社会教育(社会学級 青年学級)

第二節 事業計画の推進……………四四四

社会教育事業 盛んな社会教育(婦人学級 乳幼児教育
学級 福寿大学 市民講座) 社会体育

第三節 社会教育施設の充実……………四四七

児童会館(児童会館 泉町児童館 江部乙児童館 朝日
町児童館 北滝の川児童館) 自然の家 歩くスキー江
部乙公民館 文化センター 文化センター建設審議会委
員 文化体育施設運営委員会委員 郷土館 江部乙郷土
室 図書館 図書館協議会委員 子どもの読書をすすめ
る会 滝川地区視聴覚ライブラリー 陶芸センター 滝
川の川運動公園体育施設(青年体育センター 野球場 テ
ニスコート 弓道場 陸上競技場) 財団法人滝川市体
育協会 スポーツセンター 体育指導委員 青少年有志
指導者活動促進 社会教育推進指導員協議会

第四節 青少年の育成……………四六六

青少年補導センター 滝川町青少年団 日本ボーイスカ
ウト滝川第一団 スポーツ少年団本部 親子座談会 江
部乙町青少年問題協議会 青少年問題協議会 青少年補
導センター委員

第五節 青年団……………四七二

1 滝川青年団の動き(青年会 連合青年団 滝の川青年
団 東滝川青年団 東部青年団 空知太青年団 西部青
年団 市街地青年団 連合女子青年団 青年団体連絡協
議会) 2 江部乙青年団(女子青年団) 3 青年団体協
議会(青年会議 滝川青年連絡会 青年祭 滝川市農協
青年部 江部乙町農協青年部) 徴兵検査 成人式 青
年学級 商工青年学園

第六節 婦人団体……………四八三

1 終戦までの推移(大日本愛国婦人会 大日本国防婦人
会 江部乙婦人会) 2 新たななる婦人会活動(終戦後)
(滝川市婦人会 江部乙町婦人会 東町婦人会 坂下婦
人会 池の前婦人会 夕製婦人会 滝川市農協婦人部
江部乙町農協婦人部 母子会 婦人団体連絡協議会)
3 愛の鐘・その他(婦人会館 婦人ボランティアクラ
ブ)

第十編 宗 教

第一章 神社・寺院・教会

第一節 神 社……………四九五

滝川神社 市民まつり 江部乙神社 出雲神社 幌倉神
社 金比羅治水神社 豊滝神社 浄水神社 石鍾神社
飯島神社 空知交通神社

第二節 寺院・教会……………五〇五

願成寺 運海寺 光暁寺 広徳寺 興禅寺 日勝寺 瑞
光寺 郷芳寺 北泉岳寺(地藏尊 墓籍) 光明寺 専
光寺(游塵会) 専覚寺 照光寺 円覚寺 西教寺 法

第三節 その他の団体……………五二七

生長の家空知区連合会 創価学会

第四節 墓地……………五三〇

空知太共同墓地 滝の川墓地 満洲開拓団慰霊碑(殉難者の碑) 江部乙火葬場 江部乙村第一・第二墓地 胞衣等埋場及び斃獣捨場 滝の川斎苑

第十一編 交通・運輸・治水

第一章 交通・運輸

第一節 石狩川交通……………五三九

開村前の交通 石狩川の運輸 幻の石狩川運輸(略)

第二節 道路……………五四六

1 明治以前の道路 2 明治・大正の道路計画と工事(札幌内道路 金子堅太郎の三県巡視 上川仮道路 上川道路の改修 樺戸・空知間道路 増毛道路 空知川沿岸道路 メム・江部乙間道路) 3 大正九年の道路認定 4 主要道路の整備 (一) 一般国道十二号(一)の坂跨線橋 地下歩道(二) 一般国道三十八号 (三) 道々の整備(滝川・浜益線 滝川停車場線 江部乙・雨竜線 江部乙駅前停車場線 江部乙・赤平線 北滝の川・東滝川停車場線) (四) 市道の整備(八) 主な市道新設改良事業 生活道路 東二号通り都市計画街路の整備 道路の除排雪 除

第三節 駅 通……………五九七

高畑利宜と駅通

第四節 渡 船……………六〇五

石狩川渡船 滝の川西三丁目渡船 伏古渡船場 下四号渡船場 空知川渡船場 東裡・下赤平間空知川渡船場 東滝川・住吉間渡船場

第五節 橋 梁……………六一四

石狩川橋 空知大橋 江竜橋

第六節 石炭採掘と鉄道開通……………六一九

北海道炭鉱鉄道会社の設立

第七節 上川線の開通……………六二四

上川線の計画 布設工事の概要 開通祝賀会 営業開始 官私設鉄道連絡に就て 鉄道開通の影響

第八節 鉄道の整備発達……………六二八

空知太・滝川間の鉄道複線開通 函館本線の電化開業 蒸気汽関車の廃止 空知川鉄橋の架替

第九節 下富良野線……………六三一

下富良野線布設運動 分岐点問題 砂川村の主張 滝川村の主張 問題解決 下富良野線の概要と効果 開通祝賀会 根室本線のローカル化問題

第十節 新幹線とローカル線……………六四一

新幹線計画 札沼線問題

第十一節 鉄道 駅……………六四四

空知太駅 滝川駅 滝川駅構内流雪溝 滝川機関区 滝川保線区 滝川車掌区 滝川客貨車区 札幌電力区 滝川電力支区 札幌建築区滝川支区 滝川駐在運輸長室 東滝川駅 江部乙駅

第十二節 諸 車……………六五六

人力車 自転車 荷馬車・馬轎・荷車 滝川最初の自動車と飛行機 自動車

第十三節 自動車運輸……………六六四

滝川自動車運輸(株) 北海道中央バス(株)空知事業部滝川営業所 国鉄滝川自動車営業所

第十四節 交通安全……………六六九

交通安全の推進 滝川交通安全協会 滝川市交通安全連動推進協議会 滝川自動車運転者協会 交通指導員会

第二章 治 水

第一節 滝川と川……………六七五

第二節 石狩川の水路保護……………六七六

第三節 風水害……………六七八

明治の水害へ最初の村民大会へ 大正の水害 昭和の水害

第四節 石狩川・空知川の治水……………六八八

1 空知川の治水へ空知川護岸堤防修繕 旧空知川堤防新空知川堤防へ 2 石狩川の治水へ石狩川沿岸道路 石狩川堤防江部乙地区 石狩川堤防滝川地区 滝川排水機場 嶋の首樋門 洪水予報及び水防警報へ

第五節 関係官庁・団体・組合……………七〇一

札幌開発建設部滝川道路事務所 札幌土木現業所滝川出

目次

張所 日本道路公団札幌建設局滝川工事事務所 石狩川治水促進期成会 道路保護組合 河川愛護組合

第十二編 治 安

第一章 国 防

第一節 徴 兵……………七一

第二節 戦争・事变……………七二三

日清戦役 日露戦役 満洲守備 シベリア出動 ニコライエフスタク方面出兵 満洲事变 日華事变 太平洋戦争

第三節 町内国防……………七二六

帝国在郷軍人会 軍友会 滝川救護隊 防空監視哨 銃後奉公会 大政翼賛会 滑空訓練所 軍隊の移駐・憲兵分駐所設置 町葬 軍人・軍属戦没者 忠魂碑 忠霊塔 建設の動き 顕彰塔

第四節 陸上自衛隊滝川駐とん部隊……………七三三

概説 滝川駐とん地の創設 駐とん部隊の変遷 災害派遣と民生協力 駐とん部隊の構成・関連の土地建物 田中君太郎の談話

第二章 警 察

第一節 開村前の警察概要……………七三七

第二節 滝川警察署……………七三八

1 開村後の滝川警察 2 戦後の滝川警察署へ滝川町警察署 滝川町公安委員会 北海道警察札幌方面滝川警察署 江部乙警察官駐在所へ

第三節 公安・防犯……………七四五

札幌鉄道公安室滝川公安分室 滝川町公安協力会 滝川
地区防犯協会 江部乙防犯協会 滝川市防犯協会

第三章 司法

第一節 開村前後及び終戦までの概説……………七四九

第二節 裁判所……………七四九

滝川簡易裁判所 札幌地方裁判所滝川支部 札幌家庭裁
判所滝川支部

第三節 札幌法務局滝川出張所……………七五二

第四節 検察庁……………七五三

滝川区検察庁 札幌地方検察庁滝川支部 札幌刑務所滝
川拘置支所

第五節 滝川地区保護司会……………七五五

第六節 人権擁護委員……………七五八

第四章 消防

第一節 消防組……………七六〇

滝川消防組の誕生 消防組員と屯田兵との衝突事件 滝
川消防組第二部の誕生 第三部の誕生 舟津幸作談 江
部乙消防組の誕生

第二節 警防団……………七六六

滝川町警防団の発足 江部乙村警防団

第三節 自治体消防……………七六七

滝川の消防 江部乙の自治体消防

第四節 広域消防……………七七三

広域消防事務組合 消防統計

第五節 消防後援……………七七九

滝川町火防衛生組合 滝川町消防後援会 滝川町警防団

後援会 滝川町連合消防後援会 滝川市消防協会 江部
乙の消防後援 滝川市防火管理者連絡協議会 防災会議

第十三編 生活と文化

第一章 市民生活の推移

第一節 衣・食・住の変遷……………七八九

衣服 風俗 燃料・衣料等の配給 食生活(戦時下の食
生活 戦後の食糧 滝川町営の製塩所 戦中・戦後の食
糧統制と配給) 住 子どもの遊び

第二節 市民生活運動……………八〇〇

新生活運動 交通安全運動 交通公害 公害関係 滝川
公害防止協会 結婚相談所 町民の生活 市民のくらし
統計

第三節 映画館・劇場・娯楽……………八一〇

滝川座 蛭子座 遊楽館 (株)滝川劇場 滝川文化劇場
滝川北映劇場 滝川映画劇場 セントラル劇場 滝川劇
場 東映劇場・シネマピッコロ テアトル宝映 洪基館・
朝日劇場 滝川映劇 栄楽座 江部乙映劇 映画 パチ
ンコ ボーリング

第二章 通信・報道

第一節 郵便……………八一七

滝川郵便局 江部乙郵便局 本町郵便局 黄金郵便局
滝川駅前郵便局 東滝川郵便局 泉町郵便局 郵便通送

（※）滝川営業所 郵便貯金（封鎖まで）

第二節 電報・電話……………八二六

滝川電報電話局 農村集団電話架設 滝川統制電話中継所 無線電話（ラジオ） テレビ放送

第三節 報 道……………八三二

北海中央新聞 滝川時報 滝川商業新報 北門の三戦 北海民友新聞・滝川町報・滝川新聞 愛国新聞 新空知 北海時報 市政だより えべおつ 旧北海タイムス社 滝川支局 北海タイムス社滝川支社 小樽新聞滝川支局 北海道新聞社滝川支局 朝日新聞社滝川通信局 読売新聞社滝川通信部 毎日新聞社滝川通信部 ローカル新聞社 北海空知

第四節 放 送……………八三七

日本放送協会（NHK） 民間放送（HBC） テレビジョン （※）滝川放送協会（JHK） 商業協同組合ショップメイト放送部 有線放送

第三章 社会・文化活動

第一節 文化活動……………八四二

滝川市文化協会（芸能発表・展示会 加盟団体の沿革） 江部乙文化団体協議会（単位団体の沿革概要）

第二節 趣味・芸能……………八六六

華道 盤景 謡曲 舞踊 将棋 囲碁 美術 写真 書道 音楽 詩吟 民謡 尺八 琴 茶道 芸術文化振興会 その他の趣味のグループ 珠算連盟 自然石趣味の会 滝川ハンタークラブ 滝釣会 石狩川へら鮒釣研究会 アマチュア無線クラブ ゴルフ

第三節 体 育……………八八一

滝川演武場 滝川体育会 体育協会（加盟団体） 江部乙町体育連盟（加盟団体） 江部乙町体育指導委員会 剣道連盟 柔道連盟 軟式庭球連盟 野球 軟式野球連盟 陸上競技協会 市民体育祭 空知外三郡青年大会 バスケケットボール連盟 卓球 登山 相撲 水泳協会 ボクシング ソフトボール協会 バレーボール協会 カヌークラブ クレー射撃協会 弓道会 体操連盟 朝野球連盟 全日本銃剣道連盟滝川支部 スケート スキー 雪の祭典・市民冬まつり 自転車（江部乙輪友会） 全空知剣道連盟 空知柔道連盟 北空知ソフトボール協会 中空知軟式庭球連盟 北空知体操連盟 バドミントン協会

第四節 文 芸……………九一二

俳壇 歌壇 短歌 滝川文学 川柳 滝川詩話会 九条武子の来村

第五節 社会活動……………九二六

郷土研究会 江部乙文化団体協議会機関誌「ゆうべおつと」 文化財保護委員 ローターリクラブ ライオンズクラブ 滝川青年会議所 消費者協会

第六節 憩いの場……………九三三

滝の川運動公園 北電公園 空知川緑地 市民ゴルフ場 浴場 滝川浴場組合

第七節 史跡めぐり……………九三七

記念碑

第四章 観光

第一節 市内観光……………九四三

滝川公園 国木田独歩の碑 石川啄木の歌碑 北泉岳寺
北海道四十七義士の墓 道立滝川畜産試験場 滝の川公
園 丸加山

第二節 滝川市の周辺観光……………九五〇

雨竜町(雨竜沼と南暑寒別岳) 芦別市(芦別温泉)
新十津川町(吉野公園) 浦臼町(鶴沼公園) 砂川市
(こどもの国) 奈井江町(ないえ温泉)

付・二十一世紀への展望……………九五五

第一節 新市建設……………九五五

第二節 長期開発基本計画の策定……………九五六

基本計画の策定 基本計画の各論

第三節 中空知振興計画……………九六五

付・滝川市史年表

年 表 (一)……………九六七

年 表 (二)……………九七一

編さん後記